

## 巨人の菊地って、ウチは勝ったよね。

藤村 健夫

2023年5月13日、東京ドームでの広島戦で、巨人・菊地大稀投手（佐渡高校→桐蔭横浜大学）がプロ初勝利をあげました（写真①）。ここから、柏崎高校野球部（以下、柏高はっこう）が菊地投手を打ち込んだ夏の日の記憶がよみがえりました。職場で『昨日、巨人の菊地がプロ初勝利だったけど、樫出Jr.の時、ウチ（柏高野球部）勝ったよね。』と樫出師長に言うと、『勝ちましたねえ。』と。



写真①

### 【2017年夏 高校野球新潟県大会】

医局で購読しているスポニチによれば、チームとしては日本文理や中越が優勝候補だったが、個人としては佐渡高校・菊地大稀投手の評価が高かった。同投手は、中学3年時、故村田兆治氏<sup>(注1)</sup>が提唱した離島甲子園<sup>(注2)</sup>でその才能を見出された逸材で、高校3年時、最速145km/hの速球で、プロのスカウトに注目されていた。

夏の甲子園を目指して、1回戦を勝った柏高野球部は、7月11日新発田・五十公野球場でシード校の佐渡高校と2回戦を戦った。この試合にも、埼玉西武ライオンズと千葉ロッテマリーンズのスカウトが菊地視察に来ていた。

### 【樫出侑弥投手<sup>(注3)</sup> マウンドで】

佐渡高校と当たることが決まり、菊地が好投手だとは聞いていましたが、、（藤村：スポニチではプロのスカウトが視察に来ていて書かれていました。）スポニチなどは読んでいなかったの、特に先入観はありませんでした。ウチは2試合目だったけれど、佐渡は初戦だったってことも、影響したかもしれません。

佐渡に先制点を取られてベンチに戻ってきた時、監督に『点を取られるな！って言っただろ。』と発破をかけられたことを覚えています。ヒット1本打ってますが、そんなに速いとは感じなかった、、本調子ではなかったのかもしれない。新潟医療福祉大学野球部に入ったとき、『菊地に投げ勝ったんでしょ、スゴいね！』とよく言われたので、それで菊地の凄さがわかりました。投げ合った菊地が、今、巨人のマウンドに立っているということは夢のような感じです。

### 【武本克彦監督<sup>(注4)</sup> ベンチの中で】

菊地プロ初勝利の報道を見て、『俺たち、彼に勝ったんだ。』と現役当時を思い返したメンバーがいたことだろうと思います。菊地投手は春の大会、19回2/3連続無失点で、東京学館新潟、北越などを封じていましたが、ウチもいいチームだったし、あきらめないで接戦に持ち込めばなんとかなると思っていました。菊地投手の剛速球を打つために、バッティングマシーンを前において打撃練習をしました。大会数日前、剛速球をバントする練習で、副将水野選手が、150km/hのボールとバットの間に指を挟んで怪我をして守備につくことができなくなってしまいました。

試合当日は、菊地人気で大観衆が入っていました。1—2で負けている8回裏の先頭に、1回戦は出場できなかった水野選手を代打に出しました。水野選手にとっての初打席です。この時、柏高応援席から大声援が上がったのがベンチまで聞こえ、逆転への士気が高まったのを感じました。二死無走者から8番渡辺健斗選手2塁打、9番村田選手、1番大川選手の連続三塁打が出て、打者一巡の猛

攻で5点入って、、、勝ちました。そしてこの時の佐渡高校監督・宮木洋介先生も柏高野球部OBで、菊地投手を立派に指導していました。

【久我則夫さん<sup>(注5)</sup> スタンドで】

＜ご子息・昂輝さんが4番打者として、菊地から2安打。＞

佐渡高校との対戦が決まって、菊地投手と対戦経験のあるチームに聞いてみると、『バットにボールが当たっただけで、お客さんから拍手が出るほどの剛速球だ。』っていう話でした。

当日は、とても暑い日だった。バックネット裏には、西武ライオンズ渡辺久信編成部長（現GM）がいました。8回裏の先頭に怪我をしていた水野君が代打に登場した時、水野君のお母さんは、試合に出られるとは思っていなかったそうで、涙涙でした。2死無走者から8番渡辺健斗君2塁打、9番村田君3塁打、1番大川君3塁打、、、と続き、父母会席は大歓喜で、柏崎に帰ってきて飲みに行きましたよ。

【榎出祥隆さん<sup>(注6)</sup> スタンドで】

8回裏2死無走者から2塁打を打った渡辺健斗君は、8回表にリリーフ登板して、それが初打席でした。次の村田君の3塁打で生還しベンチに戻ってきたとき、『なんでこんな球が打てないんだよ!』とチームを鼓舞してベンチのムードが高まったそうです。父母会有志は柏崎に帰ってきて、確か“すみれや（今はもうないお好み焼き屋）”だったかな、祝勝会しました。

【榎出芳子さん<sup>(注7)</sup> スタンドで】

当日はとても暑い日でした。五十公野球場は緑が多くて、こんなきれいな場所で野球ができるなんて、と嬉しかったです。プロ野球の人もたくさん見に来ている中で、気後れすることなく、高校3年間の練習の成果が発揮できるといいなと思って見ていました。子供の野球だから一所懸命応援に通いましたけど、実は私は野球のルールはよくわかりません。祈るような気持ちで見えていました。

勝った瞬間、父母会は涙でした。“すみれや”には行っていないのでわかりません。

【がんばれ菊地投手】

高校3年秋、プロ志望届を出していた菊地投手には、9球団から調査書が届いていたがドラフト指名はなかった。桐蔭横浜大学に進学し、2021年秋、巨人からドラフト育成枠で指名された。この4年間の経験は、決して無駄ではないと思う。大人になるに連れて『人間万事塞翁が馬』を実感するだろう。練習試合を組むことも困難な離島の高校でがんばった菊地大稀投手を応援しています。

＜謝辞＞

榎出侑弥さん、武本克彦さん、久我則夫さん、榎出祥隆さん、榎出芳子さんに、貴重なお時間をいただき取材させていただきました。武本さんには、新潟県高等学校野球連盟編『新潟県高野連年報 2017年度（平成29年度）』（写真②）を貸していただきました。榎出祥隆さんには当時の新聞記事コピー（写真③）をいただきました。また植木匡先生には写真の加工の方法を教えてくださいました。皆様にお礼申し上げます。青春って、すごく密なんですよ。（注8）

【2回戦】		7/11	③	五十公野	（試合時間 2時間04分）										
佐	渡	000	110	000	=2										
柏	崎	000	010	05×	=6										
【佐	渡】	打	安	点	【柏	崎】	打	安	点						
中)	田村	英士	5	3	0	二)	大川	和希	5	1	1				
左)	磯部	翔悟	5	0	0	遊)	佐々木	颯哉	5	2	1				
三)	濱田	明優	3	0	1	捕)	渡辺	涼	2	1	0				
投)	菊地	大稀	4	1	0	中)	久我	昂輝	4	2	2				
一)	笠井	賢	3	1	0	一)	種岡	輝	3	2	1				
右)	金子	響	3	0	0	左)	小林	駿	3	0	0				
捕)	若林	玲伯	3	0	0	打	水野	陽介	2	0	0				
遊)	小池	拓哉	3	1	1	左)	片桐	葉太	0	0	0				
二)	水沼	優介	3	1	0	右)	高橋	大輔	3	1	0				
打	海老名	寿一	1	1	0	投)	榎出	侑弥	2	1	0				
走	齋藤	和輝	0	0	0	投	渡辺	健斗	1	1	0				
併	0	失	0	計	33	8	2	併	0	失	4	計	33	12	6
【三]	小池、田村(佐)						【佐]	4	2	2	5	10			
	村田、大川(柏)							懐	球	盗	振	残			
【二]	久我、渡辺健(柏)						【柏]	2	7	0	8	12			
▽審判	(球審)桜井 智	(一塁)倉島 寿													
	(二塁)新妻 好弘	(三塁)松田 祐司													

写真②

(注1) 1949—2022 元ロッテオリオンズ。剛速球とフォークボールのみで押しまくる投球スタイルと独特のマサカリ投法で通算215勝。通算148暴投はプロ野球記録。

(注2) 国土交通大臣杯 全国離島交流中学生野球大会。野球を通じて離島の中学生が島外との交流を図り、新たな人間形成や健全な青少年の育成を図ることを目的として開催される大会。村田兆治が提唱して始まった。

(注3) 新潟リハビリテーション病院 理学療法士。元柏高野球部投手

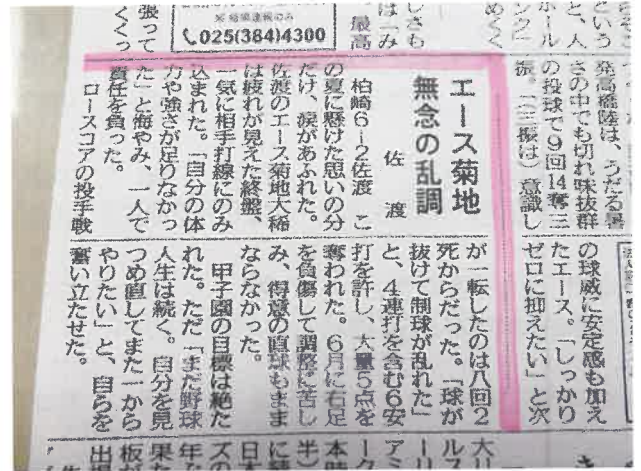
(注4) 新潟産業大学附属高校講師、野球部コーチ。元柏高野球部監督。元柏高野球部主将。

(注5) アルトラベックス勤務。元柏高野球部主将。駒谷隆雄投手（元刈羽郡病院整形外科医師）の同期。

(注6) 当院リハビリテーション科主任。作業療法士。樫出侑弥投手の父上。

(注7) 当院看護師長。樫出侑弥投手の母上。

(注8) 2022夏の甲子園、優勝インタビューで、仙台育英高校の須江航監督が、コロナ禍に翻弄された選手たちの青春を思って涙声で発した言葉。



写真③

